

## 日本西部 5 歩行記録

期日 2010 年 12 月 8 日 (火) ~12 月 13 日 (月)  
歩行区間 島根県浜田駅~出雲大社  
計画歩行距離 110km  
メンバー 江守善昭 (5 期) 単独  
使用地図 5 万分の 1 浜田、江津、温泉津、石見大田、大社  
行動記録

第 1 日 12 月 8 日 (水) 曇りのち雨 14 km 歩行

6 時 50 分 羽田発 ANA 便広島行き  
8 時 30 分 広島空港発バス  
9 時 20 分 広島駅発浜田行きバス  
11 時 15 分 浜田駅着  
11 時 50 分 国道 9 号線を東行歩行  
15 時 50 分 敬川駅 (うやかわ)

広島は快晴だったが、バスが中国山地を越え日本海側の浜田に出ると薄日の差す曇り空、1 時間も歩くと雨、やがてどしゃ降りのなか山陰本線敬川駅に到着した。1 両のジーゼル車で宿泊施設のある江津へ移動し、駅前に 1 軒だけ残る宿に入った。

第 2 日 12 月 9 日 (木) 曇りのち風雨、ヒョウも降る 22 km 歩行

7 時 30 分 敬川駅から歩行開始  
8 時 20 分 都野津  
15 時 00 分 江津市黒松町着

昨日の終点敬川駅に戻り、9 号線を歩行、都野津から雨になり上下雨具にスパッツまで着ける。途中あまりの強雨に JR 江津駅と、道の駅で雨宿りした。

第 3 日 12 月 10 日 (金) 晴れ 26 km 歩行

7 時 20 分 黒松から旧道歩行  
9 時 30 分 温泉津広域交番  
11 時 00 分 旧道を本郷へ  
12 時 40 分 鳴砂海岸琴ヶ浜  
15 時 40 分 五十猛駅 (いそたけ)

山陰歩行で初めての晴天、新しく出来た国道 9 号線に対して土地に人が旧道と呼ぶ部落間をつなぐ道を歩いた。

第4日 12月11日(土)曇り  
休養日 石見銀山見学

第5日 12月12日(日)曇り 27km 歩行  
7時50分 五十猛駅  
8時35分 静間  
9時45分 大田市駅  
12時45分 朝日山町  
14時00分 田儀  
15時40分 小田

五十猛—静間は山道を、静間—大田は9号線に沿った生活道を歩いた。大田以降は海岸線には旧道もないので9号線を歩いたが、9号線が海岸に近づく田儀の辺りでは強風だった。田儀の高台には幕末に松江藩が築いた砲台があり、先込め大砲が日本海をにらんでいた。

第6日 12月13日(月)雨 18km 歩行  
6時30分 小田  
7時30分 湖陵町水上  
9時00分 大社道分岐点  
11時00分 出雲大社

朝から雨の中、雨具を付けて9号線から大社道を歩き、地元米子に住む友松知宏さん(8期)の待つ出雲大社大鳥居へ急いだ。約束の時間に何とか間に合い彼が2人乗りの車で迎えてくれた。

(山陰歩行について)

出発点の浜田は島根県西部の大都市だが、京都からの山陰線の直通列車はなく、広島経由で行くしかなかった。冬の山陰では、「弁当を忘れても傘を忘れるな」と言うそうだが、歩行5日の内3日が雨だった。雨にはゴアテックスの雨具上下にスパッツまで付けたが、履いている靴が平地歩行用のローカットなのでスパッツが足首を覆わず足首から雨水が靴の中にしみ込んだ。しかし、氷雨であっても翌1月始めの車が大渋滞した大雪と比べればはるかに幸いだった。雨の日は手袋まで付けたので、とても地図を読む余裕がないので間違いのない国道9号線をトラックの飛ばす飛沫を被りながら歩くしかなかった。

晴れた日は、土地の人が旧道と呼ぶ部落間をつなぐ道を歩いたが、リアス式海岸のため港から次の漁港のある部落へは岬を回る海岸沿いには道がなく、つづ

ら折りの坂道を登って峠を越えた。山道の旧道では小型車なら通過できる道幅があったが、出会う車はほとんどなく落葉が広がる中をバイクの郵便配達1人に出会った道もあった。

旧道を歩くと部落に入っても店も食堂もなく自販機もなくて昼食には苦労した。10日は宿で出たドラ焼とみかんで済ませ、12日は大田市郊外だったので9号線のコンビニでオニギリを食した。山陰歩行は「弁当を忘れても傘を忘れるな」ではなく「弁当も忘れるな傘も忘れるな」と訂正したい。

旧道は高度差があり平地から離れた高い所では休耕田ではない廃田が目立ち、家も人の住まない廃屋になっている。そのような人口流出、耕地放棄のなかで山道を下り部落へ入った最初の家の後期高齢者には元気付けられた。彼は故郷を出て大阪で50数年を過ごし奥様に先立たれた機会に過疎の故郷に戻り、生まれ育った農家を小さな家に建直し、道端に見捨てられていた15体のお地蔵さんに立派なお堂を建ててお守りし、野菜作りをしている。本人は「大阪に居ては私はゴミでしかないが、一人住いでも故郷では人様のお役にたてて毎日が充実している。」と話していた。過疎対策が食料自給率を回復させる第一歩ではなかろうか。